

高島アグリベルト

農業体験施設と地域施設の複合建築によるまちの再構成

近年、都市住民が農村の自然・文化を体験する「アグリツーリズム」が注目されている。アグリツーリズムは、農村のまちづくりのモデルとして期待される反面、ハコモノの整備に終始するケースが多くみられ、活動が地域に住む人々の生活に結びついていないといった指摘も少なくない。

こうした状況を踏まえ、本設計では、地域生活に根差した農業体験施設と地域施設の複合建築によるまちの再構成を提案する。



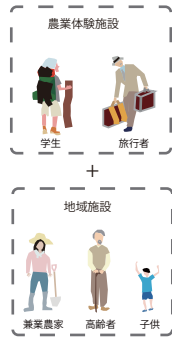
■敷地

敷地は、山形県高島町の「まほろば緑道」と呼ばれるサイクリングロード沿線のを想定する。まほろば緑道沿線のそれぞれ性格の異なる地域にコンビニと簡易宿泊施設、給食センターと観光農園、宿泊施設とレストランからなる複合施設を計画し、既存の地域施設を含めた「アグリベルト」としてまちの再構成を試みる。



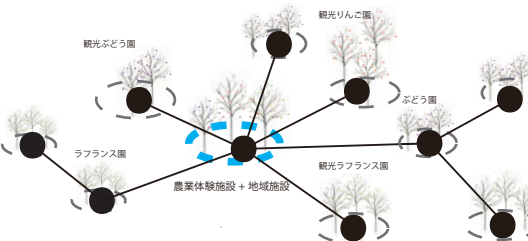
■地域施設と農業体験施設の複合建築

新しいまちづくりのモデルとして農業体験に着目し、まちに新設の農業体験施設と地域施設の複合建築と既存地域施設を計画する。それによって観光農業とまちの軸となる農業体験エリアを形成することとでまちの再構築を構想する。



■アグリベルト

それぞれの観光農園や農園をアグリベルトとして統合することで、農業体験のネットワークをつくる。地域では、農作物の物々交換の輪となり、週に一度の交換会が行われる。



■まほろば緑道とアグリベルト

「まほろば緑道」は旧山形交通高島線の線路上に作られた全長 6km の桜並木であり、地域住民をはじめ観光客にも親しまれている。鉄道は廃線後に線路はサイクリングロードに、駅は公園になった。用途が変わっても旧鉄道路線の緑道は地区と地区をつなぐ役割を保持しており、地域住民の憩いの場となっている。



■学生の活動と農業体験

それぞれの建築は高島町で活動する異なる種類の学生が利用する。農業体験施設と地域施設の複合によってまちを訪れる学生をはじめとする来訪者と地域住民の居場所が重なり合う。



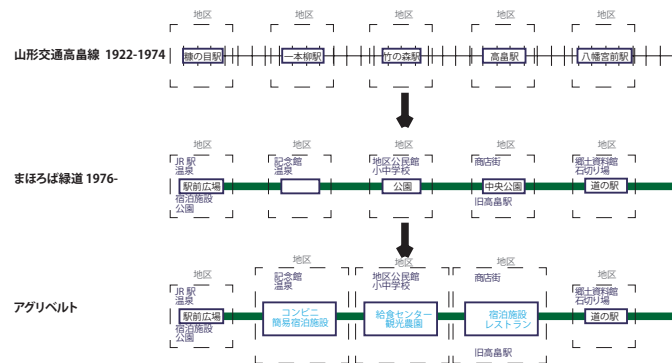
春から夏にかけて、運転免許の取得を目的とし高島へと訪れる。空き時間を使い、農業体験を行う。



学生がゼミの研修と一環として、稲作などの農業体験をおこなっている。簡易宿泊施設は滞在期間中の宿泊施設となる。



歴史遺産学科の大学生が高島町の石文化について毎年調査・研究を行っている。まちの地域施設を拠点として活動している。



■コンビニ + 簡易宿泊施設

田んぼに囲まれ既存の温泉と向かい合う敷地には、コンビニと簡易宿泊施設を計画する。このコンビニ + 簡易宿泊施設は、温泉を利用する地域住民をはじめ、自動車教習・農業研修の学生の宿泊所として、稲作体験場所となる。コンビニはこの地区にはなくなった商店の役割も担う。

■まちを補うプログラム

地域の商店



地区にはなくなった
徒歩圏内の商店

稲作体験宿泊施設



+

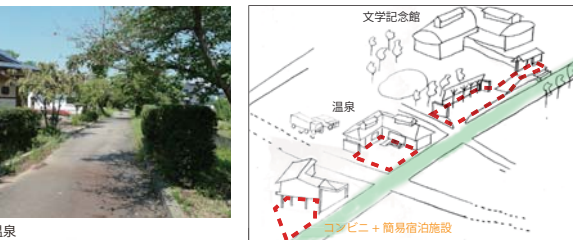
学生が集う稲作体験施設

近隣の地域施設と同じように緑道を引き込むように緑道からテラスが連続している。テラスは、子供の遊び場や井戸端会議に使われる。



緑道に接する温泉

利用者像

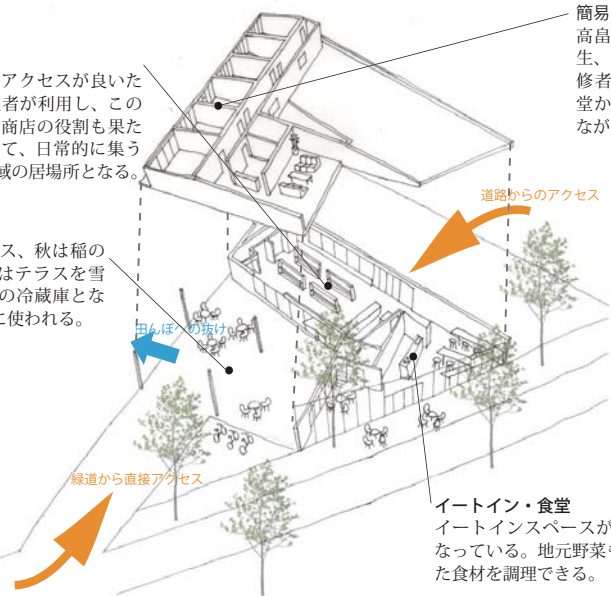


コンビニ

日常的には地域住民とアクセスが良いため温泉を訪れる運送業者が利用し、この地区唯一の徒歩圏内の商店の役割も果たす。地元野菜を販売して、日常的に集うことができる新しい地域の居場所となる。

テラス

夏は日陰の休憩スペース、秋は稲の乾燥・加工場所、冬にはテラスを雪囲いで囲うことで天然の冷蔵庫となり販売する野菜の貯蔵に使われる。

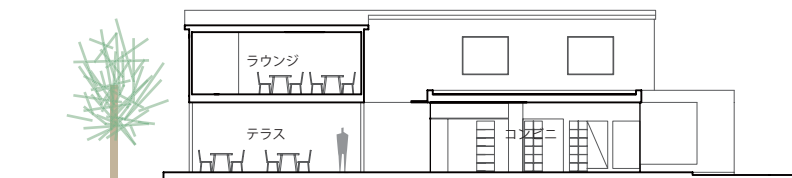


簡易宿泊施設

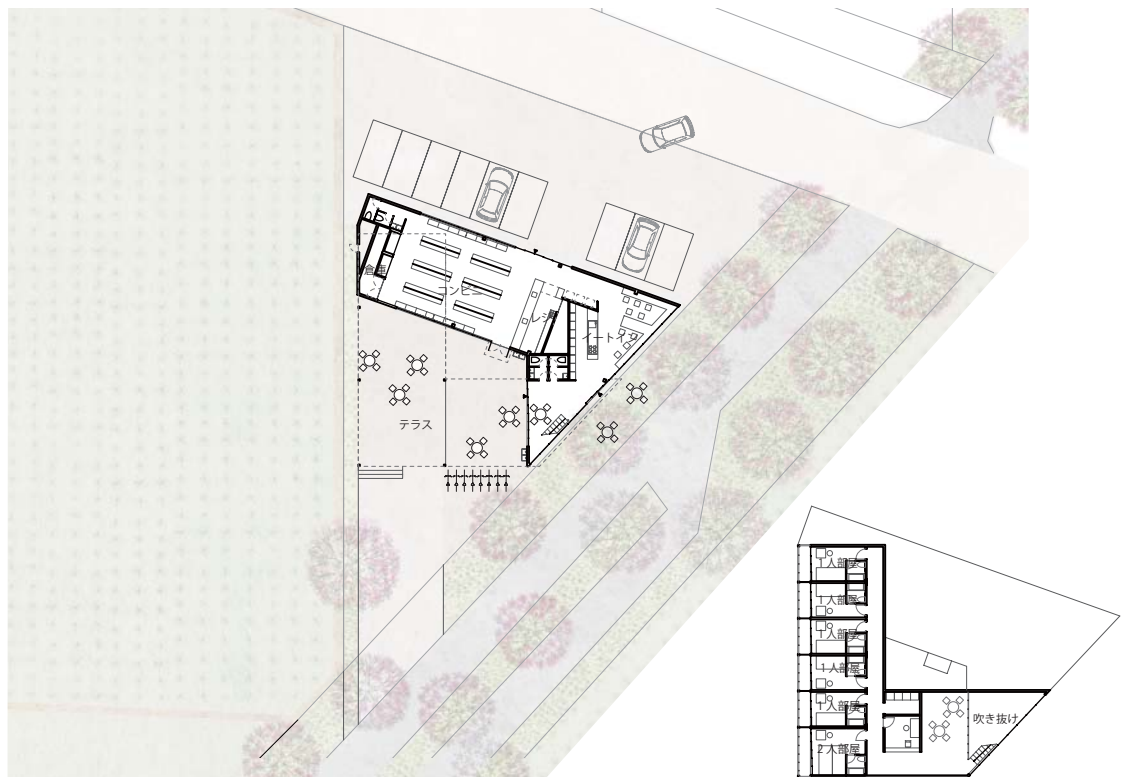
高島を訪れる自動車教習目的の学生、歴史遺産学科の学生、農業研修者が利用する。イートイン・食堂から吹き抜けを介して、ひとつながりの空間になる。

イートイン・食堂

イートインスペースが簡易宿泊施設の食堂と一体となっている。地元野菜も購入可能でキッチンでは買った食材を調理できる。

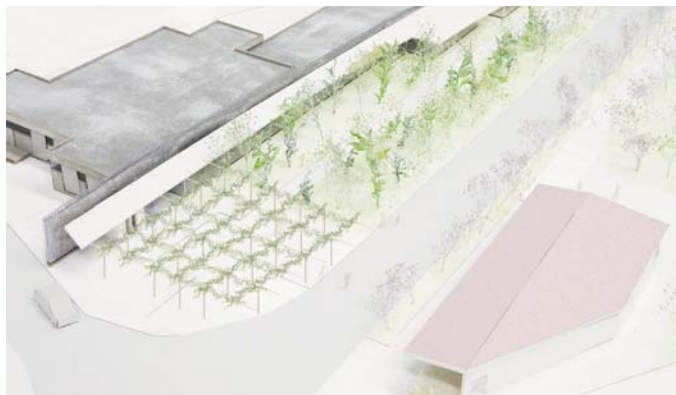


断面図 1/100



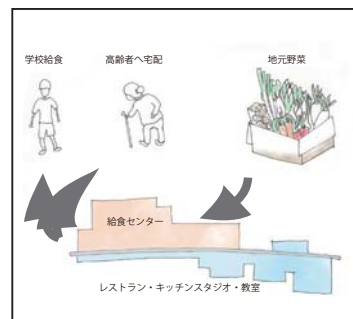
1 階平面図 1/200

2 階平面図 1/200



■まちの給食センター

町の小学校だけでなく、地域の高齢者宅への給食の宅配をおこなう。地元野菜を積極的に取り入れる。併設されたキッチンスタジオは地域に開放され、料理教室が開かれる。教室では、近くの小中学校の学外授業などでも使われる。



給食センターの石壁は、地元産の高畠石

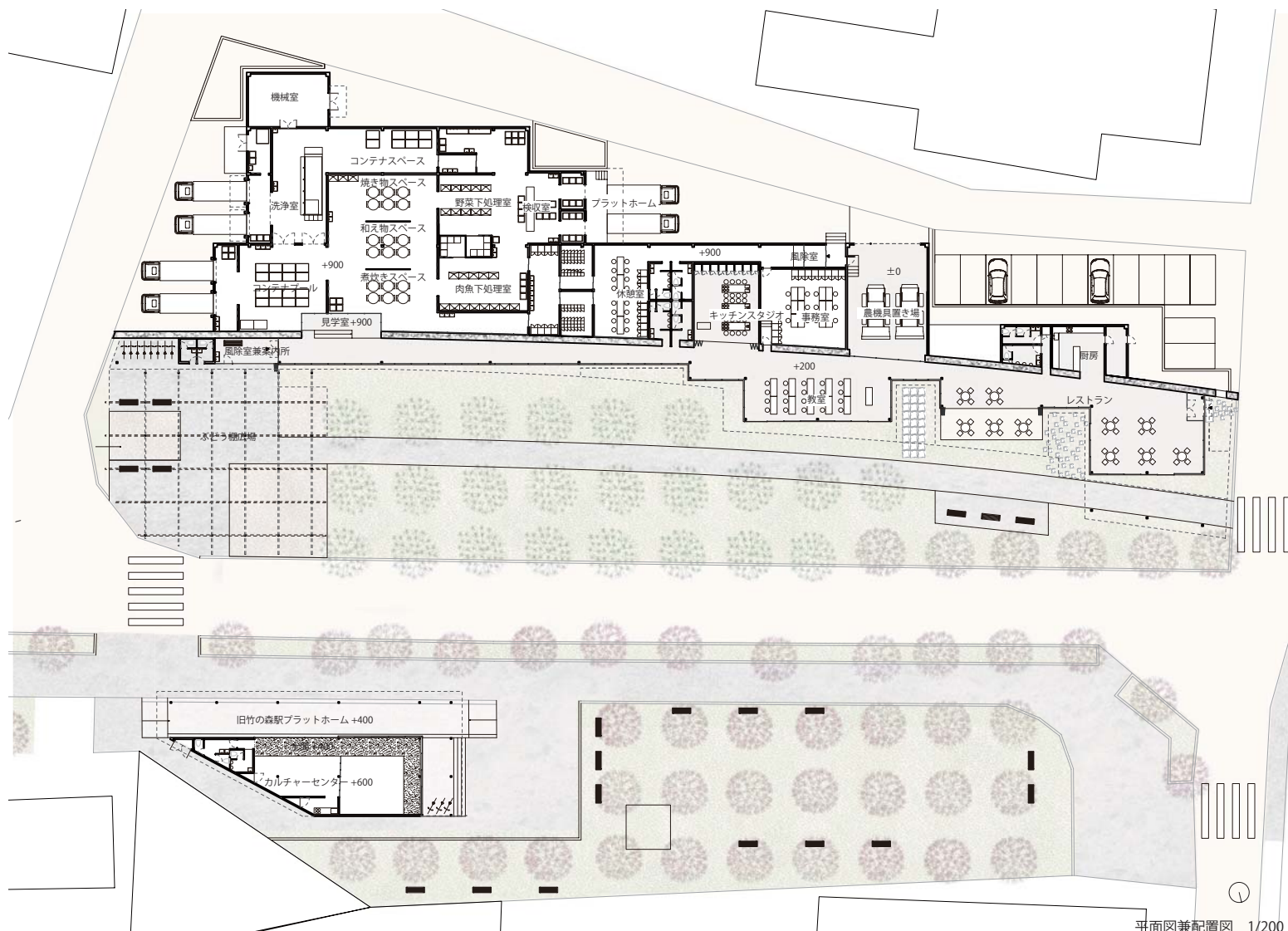
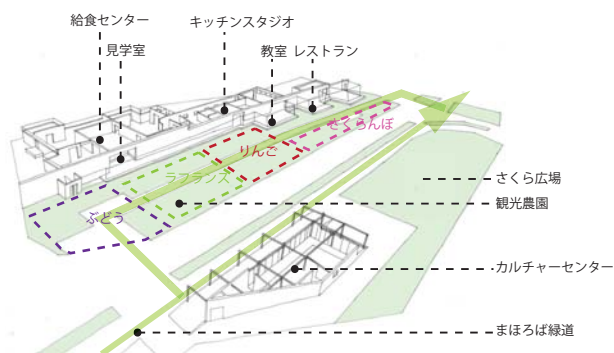
■給食センター + 観光農園

果樹園や野菜畑に囲まれた敷地には給食センター・カルチャーセンターと観光農園を計画する。給食センターと観光農園は地域の食の拠点、観光農園の拠点となる。

■まちを補うプログラム



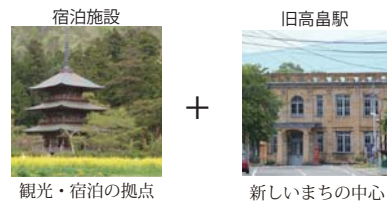
利用者像



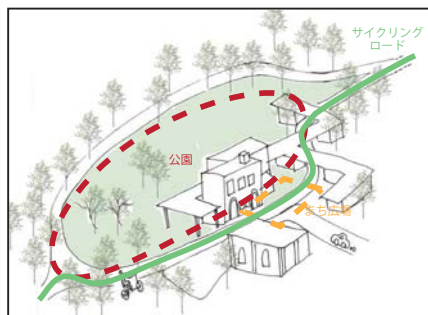
■宿泊施設 + レストラン

旧高島駅舎が残る中央公園には、旧高島駅舎を小さなホテルにリノベーションし、それに付随するようにレストラン、自転車ガレージ、観光案内所、デマンドタクシーの待合所兼ギャラリーを複合させる。駅であった面影を感じさせるぽっかりと開いた公園に沿うように屋根をかけ、屋根を支えるように建築ヴォリュームを配置する。まち広場に面するホテルのロビー、待合ギャラリー、観光案内所が小さな広場のような領域をつくる。ホテルは、レストラン、ロビーの小さなライブラリーなど地域の居場所や待ち合わせ場所となる。

■まちを補うプログラム



利用者像

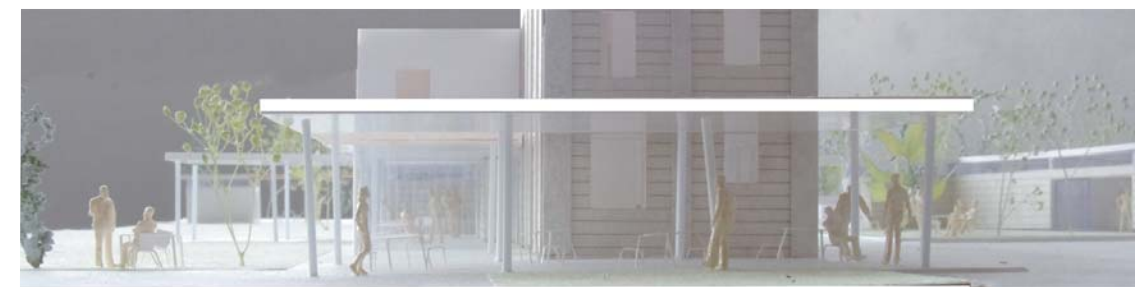
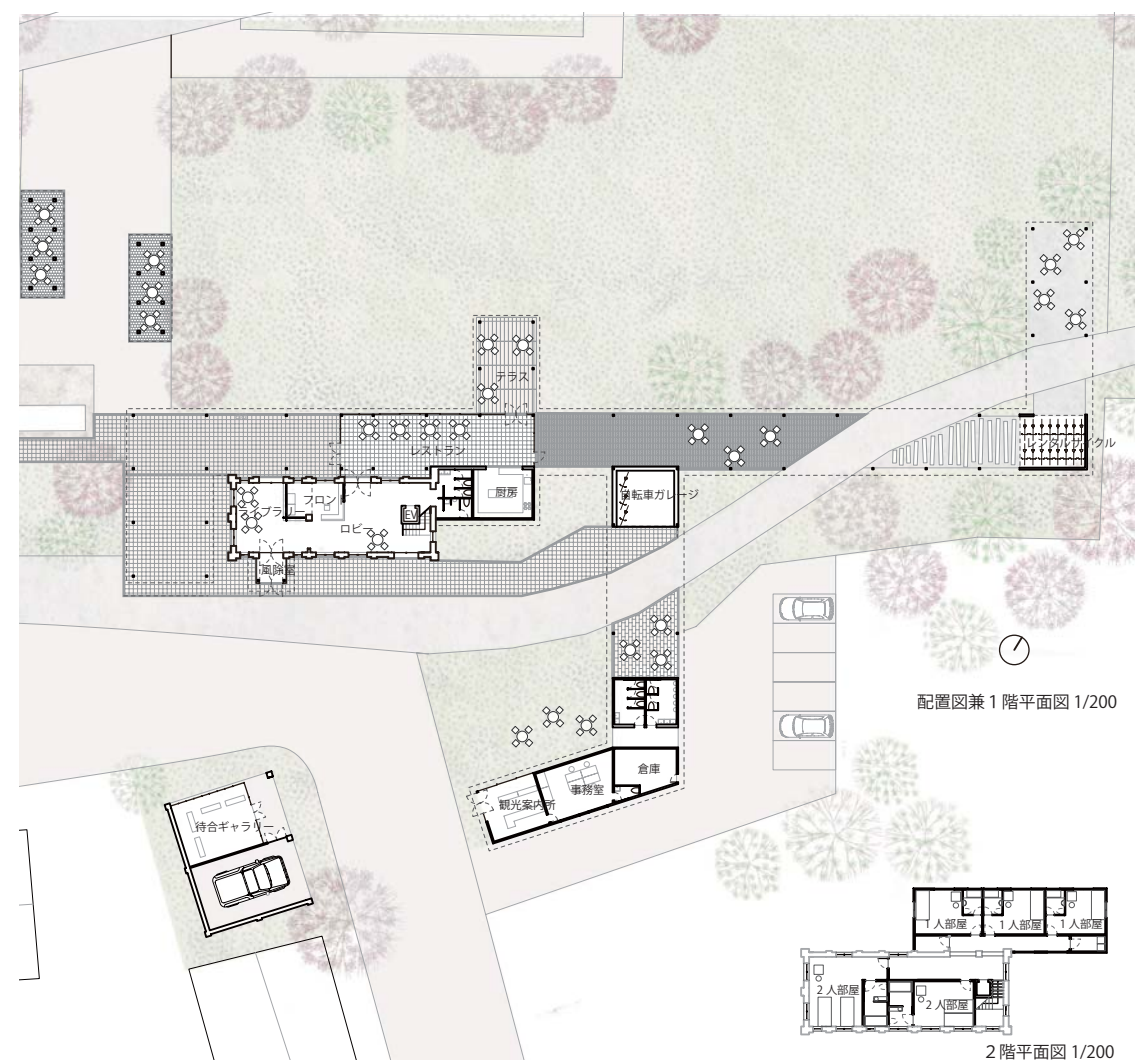
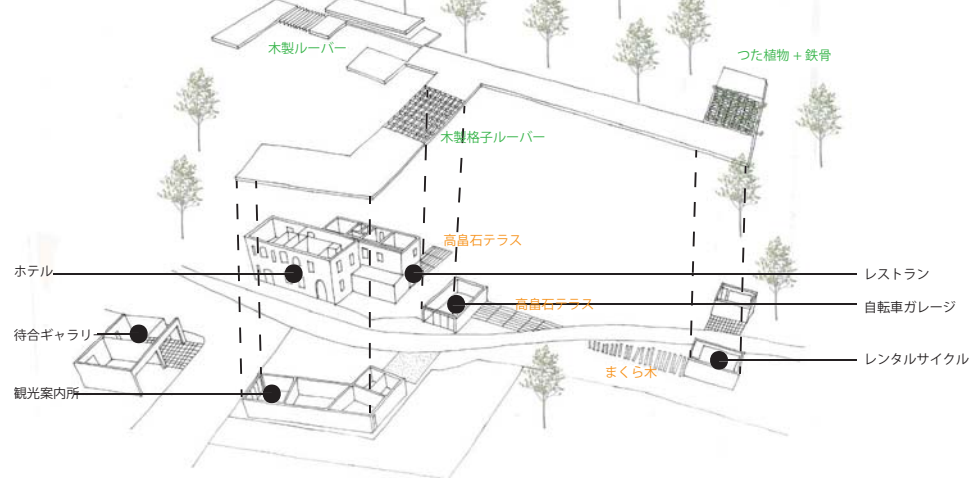


長屋根は公園に大きな日陰を、町側には広場をつくる。広場は新しいまちの中心をなり、週末には野菜市が開催される。



公園からまちの広場を見る

屋根と高島石で作る様々な居場所



長い屋根が様々な場所を作り出す。

